

喜びが刻まれて居た。

雷鳴は更に烈しく空には眞黒の雲が鬱々として運行を始めた、さながら戦亂の巷である、兄は空を眺めて感心したらしく「ホッホー」と言つた儘一言もない。

時もうつさず大粒の雨は裏庭のやさしいコスモスを急に打撃し始めた。

雨だくと近所の其所此所で時々聲が聞けた。

父はやつぱり寝ころんで「此の勢ならば作物も大丈夫だ」と喜んでゐる。

裏の方では俄の雨にヂタバタ騒ぐ物音がする。

人が家に走り込む、父の喜びもほんの一寸で冷酷なる雨は幾分かの後にはカラリと霽れて晴天白日。

彼の烈しかった雷も何時しか遠くに去つて其の影もない。

「エー馬鹿くしいこんな人に騒がせてたつたこれほど」と等と小言を言つて通り過ぐる村人の聲も聞ける、而し葉うろいにはなると喜ぶ人の言葉もする。

役方の森影には虹が薄く立つて居る。

騒げる村人を笑ふかの如くに？

●乍讀徳字佐中學校の分は原稿遅延の爲縣下各學校の終に是を掲載す。

## 女子教育に對する私の愚考

大分縣立高田高女 四年 安藤 マチエ

教育とは人間の進歩發達を助けより良く優れた人間に仕上げる仕事で有る。而して私共は將に女子中等教育を終らうとして居る。今まで私共は多くの先輩の人々を出して居る。然るに世の多くの人は其先輩の人々に列し「女學校を出ても何もならぬ、唯中流遊民を作るので有る。」等と、其眞髓を把握し得ずして唯漫然として言ひ放つて居る。私共は之を耳にする度毎に「奇快な事を言ふものだ」と無念の涙を流さずには居られませんでした。

女子の中等教育の目的は、女子を帝國婦人として、外國の文明婦人と應酬して恥じざる人を作るに有るのです。人々は夫々才能を有して居ります。多くの人々の中には敏な者も有れば、又鈍な者も有ります。才能は天が與へた性質で有る故に、これを發揮し得る事は人として最も尊い使命であると思ひます。小學校から物心のつく女學校の卒業までの間に多少なり其人の才能が發揮されている、しかし全部が發揮されているとは言はれないでせう。そこで或人の才能は女學校を卒業する迄少くとも八九分は發揮されているでせうが、後一二分がまだ残されて居るのです。才能は學問に依つて磨かれま

す。それから残された後の一二分を更に上級學校に入て發揮するのは全然な事では有りませぬか？。世の中は段々複雑になつて來ました。女子が家庭のみに籠つてゐる丈では物足りない時代となつて來ました。婦選も唱へられる様になりました。女學校まで來た人は、せめてもの事情の許す限りは上級學校に入學して學びたいものです。そしたら世の人々から以前述べた様な奇怪な言葉も出ないものと思ひます。より良き帝國女子となるべく私は上級學校を志望したので有ります。

## 巢立たんとする現代女性の覺悟

高田高等女學校 四ノ二 神 戸 タ セ

世の多くの人々が、パンを得んが爲に働いてゐるといつてよい、今日この頃日一日と、人口が増加して、稼いでも／＼食ふ事の出來ない様な人の數多ある此の現代に於て、私等は巢立とうとしてゐるのである。私等は現在の日本を前にして、どうして今までの婦人の様に安閑として行かれまじやう。況して、今から長い一生を渡らんとする私等の前途には、如何なる逆境が待つてゐるかも知れません。

又將來生存競争の激げしい世界に立つて、家族を養ふべき資を得なければならぬ場合に遭遇するかも知れません。それには第一に社會に立つて活動し得る資格がなくてはなりません。

よしんば、物質的に恵まれて、かゝる必要がないと申しましても、是れから生れんとする第二の國民を造る爲には、其の母たるべき人が薄弱なる知能學識では、より立派な國民を育て上げる事は出來ないだらうと思ひます。又一方には、女子の知識が低級であるといふ偏見を打破する上から、從來の婦人の如く男尊女卑といふ世の習に屈從してゐる様ではいけません。女として一人前の人間であり、男子と同等の才能を持つてゐる以上、私等は現今以上に學藝を習得する必要があるとあります。

しかも、古の如くその設備の完備しない時代ならともかく、女子の爲にいろ／＼と、向上の道の開かれて來た今日であるから、各人の持つて生れた才能發揮に、自覺して向上の道につくべきものと確信するのであります。

△

▽

△

▽

△

▽

△

▽

# 私の進路

高田高等女學校 第四學年 佐々木富子

世は日々進んで行きます。此の止む事のない文化の進展に際して現代私達女性も遅れない様に見識を廣め精神の修養に努力しなければなりません、男性は女性に比べますとあらゆる機關が準備され機會に恵まれて居ますから、一般に女性に比べて時代の進行を並んで行ける可能性が十分ですが現在日本女性は彼の封建時代の習慣が残つて居るのでせうか、割合に引込主義で自分から進んで學理の探究まで行かすとも男性に劣らないだけの學識を得ようと努力する人が少ない様に思はれます、家にはかゝり引込んで居て終日お裁縫に暮すのが能ではないと思ひます、一世紀前まではそれが所謂立派な娘であつたかも知りませんが現在ではそんな女は時代後れの女と言はれるかも知れません、然し私は終日家を留守にして出歩くモガを讚美する者でもありません、世の親達が往々口にする女は學問は入用ない家を都合良く處理し子供を育てる事が出来れば良いと然し私は此の言葉を疑がはずには居られません、只一般的な莫然たる教育を受けただけでそれで今から生ひ立つ子供を十分に教育して行けるでせうか私どもが家庭を持ち子供を持つた頃は時代も進み子供もだん／＼上の學問を受ける様になるでせ

う其の場合に十分な頭がなかつたならば必ず困る時が起ると思ひます、中等學校の教育を受けたのはそれは受けないよりは確かに良いと思ひます、然しそれで十分であるとは斷言出来ないと思ひます、中等程度の教育は一般的です或程度まで實用的ですけれども大部分は理論に過ぎないと思ひます、勿論其の理論に基いて實用的にやつて行けない事もないですけれども非常に困難だと思ひます、それで出来るならばもう一つ程度の高い學校に入學して研究したならば其の中等學校で教授された理論を十分に活用して行けると思ひます、然し私は女性と言へども十分に學問をして男女同權を叫び又婦人參政權の獲得運動の先鋒になる様にと言ふではありません、子供を養育する者は女性です、之は神が與へられた天職です。國家を隆盛にするのは第二國民たる青年です、其の青年を生み出す者は女性です私達女性の双肩には何と重大なる使命がかゝつてゐる事とせう、其れで私達は出来るだけ機械を利用してあらゆる方面に發達する事に努めなければなりません、其の手段としては十分なる知識の蓄積が必要と思ひます、私が上級學校に進まうとする動機は此の様な動機からです。

x  
x  
x  
x  
x  
x  
x

## 吾は上級學校へ進まん

高田高等女學校 四年

右 永 子 工

現今、社會の狀態を眺むるに、人々は最早立錐の餘地なきまでに激増し、それに伴つて人類の生存競争は實に激烈なものであります。しかのみならず、社會の文化は一時も停滯する事なく、日々新陳代謝して謂はゆる、日進月歩の世の中になつて参りました。此の僞唯、安閑として、空しく四ヶ年の學窓生活を終つたのみで、直ちにかくの如き社會の渦中に投じたならば、未だ獨立し得べき素養の不十分な私達は、如何にして自活の道を開き得ませう。如何にして社會の文明に順應して行けませう。就中、秀いでた長所を有せない私に取りましては、實にその前途が不安なのでございます。

回顧すれば、古の日本の女性は、唯良人の附物の如くして、外に出で、男子と同じ様に、盛んに活躍するでなく、婦人の進歩向上といふ事は、毛頭眼中に置かれてゐなかつた様に思はれます。さればこそ、女子は豊富なる潜勢力を保有しながら、空しく、その活動能率を認知されず、遂に男尊女卑といふ、恥辱此の上もなき聲を聞かなければならぬ破目に陥つてしまひました。何と残念な事なるよ！、しかしながら將來、否、現在の自覺せる女性が、いかにして、かやうな偏見を坐視してゐられや

う。いやしくも女子參政權や男女同權といふ事さへ高潮されてゐる時代に……。此の偏見の打破！、おゝそこに私の希望はあるのです。以上縷述せる如く、自分一身の爲、將た社會の爲に、より多き人生の艱難の試練と闘つて、微々たる者ではあるが、いさゝか何かに役立つ事を期して私は上級學校の入學を志望する次第でございます。

## 私は上級學校へ進まむ

高田高等女學校 四年

佐 藤 幸 子

昔より女子は家庭に在りて、ひたすら家事に務めるのが女子の主なる務でありました、それで女子は男子に比して學問や其の他の智識が大分おくれれてゐました、しかし次第に時代の進むにつれやう／＼進歩を促しました、そして今日では男子にも劣らぬ位になりつゝあります、さて此の日進月歩の時代にやつぱり因襲により女子は家庭にばかり閉ぢこもつて居る事は、何と目覺むべき時でありますまいか。

女子は女子らしくあることは大切です、しかし一方には男子と同様に社會に出て働かねばなりません、社會に出るには相當の知能がなければなりません、たゞ女學校を卒業したのみでは、まだ不満です、尙上級の専門學校に進み、立派に卒業が出来た時に、一人前の人となり得るのです、そして或職に就く事が出来ます、そして自分一人で生活する事が出来ます、あまりに人に、ばかりたのである人は、何時どんな事になるやら分らないおそれがあります、自分自身に働いて尙餘りあれば親に報恩する事も出来ます

此等の事を考へ尙上級に進まうとするのであります。

## 私達の醫學を研究する目的

高田高等女學校 四年

尾上高枝  
豊田勝代

私達二人の醫學を研究する目的は我が國の他界能率の多きを憂へ此れを救助して大いに國家の爲につくしたいと思ふ事と今一つは私達の興味を持つ職として研究するのであります。

兩親も私達の意見に満足してゐます。

私達自身も確に成功する覺悟をもつて大いに奮闘し様と思つてゐます。

## 我等の前途

大分縣立國東農學校 第三學年 安田文雄

我等は近く本校を卒業し其の多くは年少氣鋭の一事業家として社會の活舞臺に立つて活躍しなければならぬのである、此の秋に當つて我等は如何なる抱負を以つて世に處すべきかを考察して置く事は極めて大切且重大なる事である。私は家庭の自然的感化を受けた爲のでもあらうか、自分の境遇、性行、趣味等の上から考へて是非農業者として身を立てたいと希望を懷いて居る、我等の前途は實に遠くである、少くとも今後五十年間は奮勵努力我帝國の實業界の爲に大いに盡力しようと思つて居る、我等若き青年の前途には春霞にさざされた原野の如く人生の廣大な天地が存し豊かな希望に満ちて居るけれども、其處には重大な問題が存して居る私の將來希望して居る處の農業に關しても農村振興問題

食糧問題等の難關が横つて居る、我等はこれに對して如何にすべきであるか、農村は日一日と衰微して行く之に反して都會は膨脹をきたして居る現状である、之は一つに農村中堅たる青年の淺薄なる考の爲に都會へと憧れて行くのであると信する、故に都會に於ては人口過剰となり續いて就職難が起り農村に於ては農業の不振となつた結果、今日の如き不景氣が渡來したのであらう、建國の始めより農業を産業の基礎とせる我國に農業が振はないうで國家が隆盛となる理は無いのである、故に我國が今日かゝる莫大なる外債に苦しめられ年々四億數千萬圓の入超と云ふ結果になつて居るではないか之を回復するには如何にすべであらうか、もとより我等學窓より眺めた社會は實社會の真相をば果してこの程度まで洞察し得るかは知らぬ、併し生産の源、農業の振興は其の基本をなすと云ふても過言てはあるまいと信する、即ち生産を増加して販路の擴張より外はない、此の實現は我等若き青年の將來擔ふ重大任務である我等は生れながらに第二の國民否農民である。いやしくも中等學校を終ふべき我等は農村の中堅となり又指導者となつて農業技術及び經營の上に於ても大いに貢獻し、社會制度の改善と相俟つて現代のデンマークに於けるが如き理想的な農業を實現して世界に名負ふ農業を産業の基礎とせる國として恥ぢざる様にし又一面に大分縣立國東農學校の卒業生として立派な人格ある農民否國民として力強く生きたいのである。

## 我等の覺悟

大分縣立國東農學校 第三學年 末房正人

我等は近く本校を卒業し、其の多くは年少氣銳の一事業者として、我等社會の活舞臺に立つて活動する事となるであらう。此の秋に當つて我等は將來如何なる理想を以て世に處すべきかを、考察して置くのは極めて肝要な事であると自分は信する。即ち我等學生の前途は洋々として遠遠である。

我等は少く共今後四十年間の奮勵努力して我が國の實業界に大いに貢獻する所がなければならぬ。一生の間我等は常に高いもの、大きいものに向つて進んで止まない態度を持續せねばならぬ。苟も小成に安んじて餘生の安樂を希ふやうな事があつたら、それは自ら求めて自分の生涯を無意義にするものである。我等は一生涯の間に必ず大なる成功を贏ち得なければならぬ。故に其の成功の域に達する迄は倒れても尙止まないといふ強い氣概がなければならぬ。我等の成功とは大資産家となることのみを意味してゐない。即ち實業を以て國家社會に奉仕するといふ點にあるのだ。だから我等の成功は幾年、或は幾十年の努力苦心の結果、一時的に來るものでなく、毎日毎時除々に來つてそれが積累されて行くのである。我等一生の成功とは其の積まれたもの、總計である。無論此のやうな理想を以て成

功を志す人は必ず世の信用を博して巨萬の富を得るであらうし、實業としての名譽をも得るであらうが、それは成功の結果として生じたもので成功其のものでない。「正しく出發する事はそれ自身に於て立派な財産だ」といふ西洋の諺があるが、誠に適切な言葉である。それで我々は社會への忠實な一歩は我等一生の業務に關係するのであるから、我々は一日／＼の業務に忠實でなければならぬ。我等は卒業後に直ちに實社會の事業に自ら主宰する様な境遇に立つ事は少なく、其の多くは父兄、或は先輩の下にあつて、其の事業を助くる様になるのであるが、決して此の様な境遇に不満を持つてはならぬ。それは我等のなすべき事業の當然の順序であつて、是等の業務の間に我等の成功は着々として積まれて行くのである。我等は此の様な境遇の下に數年間經驗し、相等の經驗が出來たならば進んで獨立自營の精神を發揮して、自己の獨力で或事業を經營するやうにしなければならぬ。青年が常に他人にのみ依頼して他人の力によつて生活して行くやうでは、其の國の産業は決して發達せず、同時に其の青年は成功の域に達せずして一生を終るといふ、悲惨な境遇に立たねばならぬ、故に我等はなるべく新天地を海外に求め、世界の各地に活動の舞臺を見出さねばならぬ。かやうにして進む中には我等は思ひがけない失敗をして、非常な苦難に遭遇する様な事もあるであらう、否一事業を完成する迄には一度や二度の失敗は當然の事であると覺悟しなければならぬ。失敗は成功の基といふ事もあるので多少の失敗に落膽し、或は自棄に陥る様な事は實に自ら望んで自分を不成功に導くものである。斯の

様な事は短慮の至りである。又我等が實社會に出て一度決した事業は専心之に勉め、決して他に移變してはならぬ。事業の移變は殆ど總ての場合に失敗の原因となるものである。我等が他の事業に變更してまでも、それに手を出すのは我が本業を失敗に歸せしめる本であつて此の様な人は二兎を追うて一兎をも獲ない人である。要するに、我等は以上の様な事を考慮して、本校卒業後、實業會の活舞臺に出で、我等一生涯の間に我が國の實業界に貢献し、以て國利民福の爲に大いに奮勵努力せねばならぬ。

## 現在の私

大分縣立國東農學校 第三學年 小田原治郎

私は高等小學校を卒業して本校に入學しました、それも私が農業に好きだから、農業を研究して、農村の爲に盡し、農業を盛ならしめようといふ様な考の下に入學したのではない。

高等小學校を近い内に出て行かなければならないと考へた時、小學校を卒業しても、今からの世の

中では、どうしても困る事が多い、又此の儘家業に就くのも、同級生で中學校等に通つて居る人々に負けた様な氣がするので、まあ何とかして上級の學校に這入り度い所から父に強請つて、農學校に入學させて貰つた、さて入學して新入學生氣分で何の事も無く一學年を終り二學年となつた所で、少しは生意氣な風姿を見せて居る中に年も暮れて三年の年を迎へた、こんな進級の仕方こそ眞實に「犬ころも三年経てば三つになる」と云ふやり方であらう。然し乍ら一年二年はそれで済んだが、今度といふ三年生は今迄と同じに易々と通り相にない、馬鹿な事をして居て、此の儘通したらそれこそ大變だ急いで確固たる目的を立てなければならぬ、何でも自分から進んでやる時は旨く事が運ばれるものだが、外部から迫られてやる時は中々旨い具合に進行しないものである、私は今急いで目的を立てなければならぬ。三年生と云ふものから、迫られて居る、さあ自分に一番適當な將來の方法は何であらうかと急に考へて見るけれども中々旨い事はない、今迄先生に「君の目的は何か」等と問はれた時は「私は教育勅語の御趣旨に基づきまして、立派な日本國民になります」等と空漠な解答をしたり、又は「農業々々」で済まして來たが、今度と云ふ今度は中々そんな事では、濟み相にない、懸命になつて考へても、更にわからない、農業にはもとより興味を有しない、それかと云つて更に上級學校に行くには學費は何所から、考へても出來ない、それでは一生懸命勉強して檢定でも受けて成功する手段はあるが、それは丁度小さな蟻が壁に打突つたと同様で之を越へて、行こうといふ勇氣もなければ出來相

にもない、それで無ければ何かで小さな月給貰ひか？これは一生をせきりで終りはせぬか、と云ふ心配がある、私にも矢張人並のみ名譽心がある、誠に勝手なしかも意氣地のない申し様ですが、此れが私の眞の告白である、急がねば困る／＼と思ひ乍ら、今でも矢張りフラ／＼である。

## 我等の覺悟

大分縣立國東農學校 第三學年 社 藤 直 人

吾々農友は土に生れて土に死し、そして永遠に土にラブを結んで強く生きなければならぬのだ。人生僅か五十年、永くて又實に短かい、此の人生を有意義に、即ち社會に對して何等かの寄與貢獻をなすべく努力に自乗して、己の理想の向上を計り以て強く進まなければならぬ。然るに今日修養の途にある吾々學徒の間に、やゝもすれば種々の問題が起り易い、樂園たる此の小グループに於てさへ斯の如く浪の立ち易いのは一つは社會の影響である。凡てが行きつまりの状態にある社會に於て、食糧問題、いや人口膨脹問題、或は農村不振問題等の社會問題、政治問題が頻發し、平和な理想境で純



潔を誇りつゝ、修養した處の我等が、この大海の怒濤に打出さるゝ時ごうして強く生きられやう。此處に於て我等の腦中に第一に飛込むものは何か、即ち空想を描き、幻想を追ふ不隱的な思想と、歴世思想の侵入である。故に社會に於ては常に種々なる悲劇が醸され易い、然らば第二の國民たる若人吾々は如何にして此等の弊害を防禦し除去すべきか、諸君強く生きんと欲せば先づ海外に飛べ！、其處には無限の自然と希望の春が甦つて居る。平和な空氣に力強い呼吸をして、己の前途の理想をおひつゝ、新天地を開拓せんとする我等にこそ、日本國民としての眞の人生は興へらるゝであらう。國家興隆の基は海外發展に在る。沈滞せる社會の凡ての問題を救済し、解決し、しかも限有る土地に増殖しつゝ、ある我が帝國の倉糧缺乏は、年と共に甚く、若し自然に放任せば、一八九〇年モルトケ將軍の發せし言を又再び繰返さざるを得まい。即ち「他國と一朝開戦するや如何に國內に精兵有りとも食糧を他國に依頼せざるべからざる状態にあらば、其の國は未だ一兵も動かさず、一砲も放たずして早くも敗戦の數を免れない。」と此處に於て我等農友は一大結束をなして、以て是の域より遠ざかるべく努力し又理想的に強く生きんと欲せば先づ自己の力に依り、廣漠たる新天地を開拓して、其處に偉大なる理想に到達すべくベストを盡して、現代の失業者を人口問題を國家的見地から、而かも將來に於ける大和民族の發展から、凡ての根本的解決を此處に求めずして何處に求められやう。開國の其の時より農を國の基礎とせる我が日本に於て、近時農を輕視するの傾向あるは實に痛嘆に堪へない次第である。

國家存立の最大支柱は何か、これ農に非ずして何物が有るか、而も農家の子弟たる者は實に其の中堅をなす所の力強い纖維である、この力強い纖維たる若人はやがて第二國民として來るべき時代を双肩に負ふ任務を有する分子である。意義ある人生として、意義ある國民として、力強く生くることは之れ吾等學徒の理想でなければならぬ。

終り

## 我等の理想

大分縣立杵築中學校 第五學年 山村仁太郎

世界の全人類は國家的生活を營める諸民族の集合である、各民族は民族それ／＼の個性を發揮して全人類の進歩向上に貢獻する所あらねばならぬ、之即ち人類の高遠なる理想にして、人類の萬物の靈長たる所以も之に存するのである。

今世界文明の基礎を築いた西歐諸國が世界に貢獻し功績を一瞥してみると、先づ猶太民族は宗教的天才を輩出して、精神文明の中堅たるキリスト教を創始した、希臘民族は哲學、文學、藝術を以て世

界に貢献し、羅馬人は政治、法律の如き團體組織を以て社會生活上に獨特の貢献を成した、以上三民族は各異つた方面から文化の三要素を捧げて、近代文明の根底を築いたのである、近世に至りては獨逸は科學、哲學、音樂、醫學を以て世界の文明に花を添へた、其の他和蘭は教育、商業、瑞西は工藝及び民政の進歩を以てし、佛蘭西は彼の佛國革命の經驗により自由民権や個人思想の發展に貢献してゐる、又英吉利西は立憲政治の發展に貢献した以外、詩歌の上より世界文學史上古今獨歩の地位を占め、燦然たる光を萬古に輝かしてゐる、最近に於ける物質文明に伴ふ科學の進歩は、特に英、獨、佛、伊、米人に負ふ所莫大である、更に東洋方面を観察すると、彼の支那、印度も世界文明に貢献すべき素質を充分有してゐる、其等は縱令直接世界文化に貢献しなかつたとは云へ、現今東西兩文明が相接觸、融合するに至つて、彼等の古代文明が世界の學者を驚嘆せしむるものが少くなく、その古典は續々西洋の言葉に翻譯され、宗教思想に、哲學思想に多大の貢献をなしてゐる。

要するに現今世界の有力國と稱せらるゝ歐洲諸國及び支那、印度は宗教、文學、哲學、科學、美術、建築、音樂等吾等の知り得る總べての方面に於て一國一民族を代表する世界的天才を輩出して世界文化に一大貢献をなしてゐるのである。

然らば建國二千餘年を誇る我が日本民族は世界の文明に如何なる貢献をなしたか、如何なる天才家を輩出したか、勿論我が民族特有の文化も有り、世界の偉人と比較して一步も劣らぬ先輩も有る、然

し世界てふ一大社會を益するに足る文化、天才家を有してゐるだらうか、此の點を考察する時は世界一等國を誇る我々日本人も甚だ心細く、且つ恥かしい次第である。

惟ふに我々祖先が世界的文化を持たぬのは海洋てふ天然の城壁外界との交通を遮斷し、民族的競走なからしめた爲である、然らざる時は我等祖先もより目覺ましい活動をなしたに相違ない、然し今に至つて徒らに過去を悔ゆるは愚痴に等しい愚の至りである、我等の目前には廣漠たる未來が横はて居る、其處こそは過去に於て夢死せる日本民族が雄飛するに恰好の舞臺である、親譲りの財産がないとて悲觀するには及ばぬ、相續者の努力によりて如何なる身代をも作り得るからである、現在に於ける我等の境遇は恰もこの無産の相續者に等しいのである、故に親譲りの財産がない我等はこれから自分で自分の財産を作らねばならぬ、換言すれば世界の文運に貢献すべき日本民族としての特色を發揮した或る物を創造せねばならぬ、其の爲に國家は我々第二の日本國民に體、徳、知の三大要素を要求してゐるではないか、親愛なる同胞よ！特に青年諸君よ！目覺めよ！然して大いなる力と大いなる理想とに生きよ！大いなる理想とは何ぞ、狭小な島國根性を放棄し、宇宙に誇るべき大和魂を維持して世界的宇宙的大貢献をなさんとする不斷の努力その者である。

## 青年は如何に人生を觀るべきか

大分縣立杵築中學校 五年生 黒田 弘

人の心は天を望むべきも人の身は終に地を離るゝ能はず。人の眼は前途を觀得すべきも山川草木青々として眼に入るは殊に清快なり。我等は雲烟漂渺たる彼方に理想の境地を翹望し、山河懸隔せる前途の希望の天地を見得して遽に之に近づかんとすれど現實の繫縛は永へに我が身を止め、我が足を縛す。理想の境地を得て之に憧憬するはよし、歩々向上の手段を示さず。天上の明月之を眺むるも之を手にすること能はず。眼に見て清明を感ず。世の宗教家が多く此の捕捉し難き理想の光景を揣摩し想像して現實生活を侮辱し、机上の空論に消閑して救世の大事を忘失し、自己又行ひ難き脫離の法を説きて慈眼徒らに實なきは今日の情勢にあらずや。

理想なきものに煩悶なく、希望なきものには苦悶なし。夕顏棚の下涼に家庭の團樂を楽しむは人生の快事之に過ぎず。豈萬丈紅塵の街頭に利を漁るものゝ夢想する所ならんや。星を戴いて出で月を望んで歸り終日營々として働く。豈簿書堆裡に我が志の遂げ得ざるを恨まんや。希望は人を活かしむ。理想に生きよ、希望に生きよ、我等は平和なる清爽なる日を送りつゝ、現世の苦惱を忘れて快き生活

の下に生きんとす。あゝ、青年よ深く此の點に留意して以て一生を送らんか。生と云ひ死と云ひ之れ又何の悲喜すべきぞ、達觀すれば海上の千波萬波の起伏するに等しかるべし。青年よ心陽氣なるものゝ一生は樂園なり花園なり。心憂鬱なる者の一生は地獄にして到底人の忍ぶ能はざる所なり。我等は紛々たる現實の繫縛を脱し別に天地の悠久なる懷に抱かれん。然らばこの敬虔の念は吾人をして此の現實生活に一段の清風あるを覺わしむるは言を俟たざるなり。

## 學生の行くべき道

大分縣立杵築中學校 第五學年 堀 貞 雄

歐洲大戰は吾等に何を物語つたか。

それは体格の強健と云ふ事である、体格の強健でない者は前途に偉大なる目的を持つてゐても、すべてが空想にすぎない物になつてしまふ。

故に學生は男女をとほす強健なる身体を持ち、勤勉努力して己の目的を貫徹しなければならぬ。

確固たる目的を定め、且つ此れを變更することなく、各自の最善の努力をしなければならぬ。吾等の得ることの出来る知識のすべては畢竟努力の所産であることをしらねばならぬ。

二十世紀の文明は名譽も富貴も皆學術によつてのみ得られるやうにした、吾國も明治の初年にはじめて世界の文明に接して以來未だ人材に乏しき時代には學術萬能主義で學術上の知識の深い人は所謂生字引として尊ばれた。

故に成功と云ふ文字もおのづから狭少になつた。

しかし大正の御代に至りて學術的知識のみに不満を抱きはしめて品性陶冶の聲が高まつて來た。

吾等學生たる者は單に學校のみならず家庭、社會においても品性の修養につとめなければならぬ。

學生の思想悪化學校騒動などは畢竟彼等の本分を忘れ、品性の陶冶を怠つた結果である故に學生たる者は、この點について特に注意しなければならない。

現代の社會が學術的優秀なる人物よりも精神的優良なる人物を要求してゐることは明らかな事である。

故に品性陶冶は吾等の將來の立身出世の必要條件であると云ふ信念に立脚して修養につとめ、優良なる人物にならねばならぬ。

物質的利慾に束縛されない學生時代は實に人生の花時である、最も幸福な時である。

我等はこの花時を青春の歡心をあげて楽しむと同時に高遠なる理想の基礎をきづかねばならぬ。

この高遠なる理想を追ふて吾等は益々吾等の水平線を高くしなければならぬ。

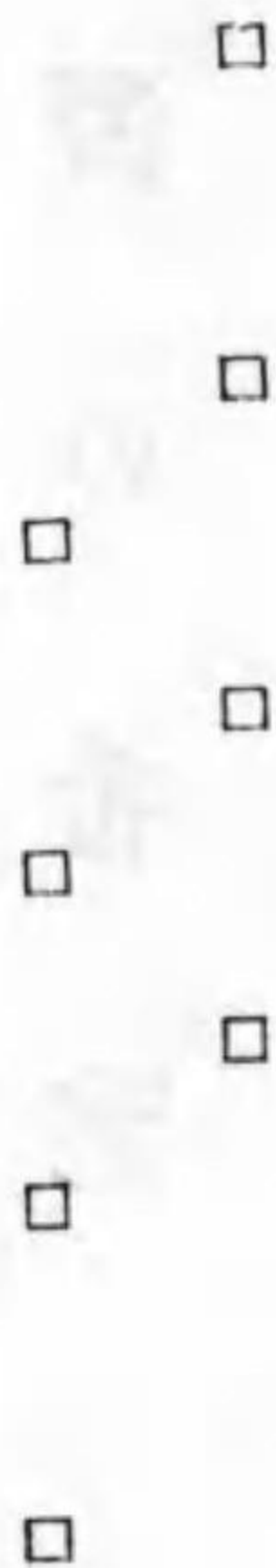
又この理想を追ふことは學生の生命である。

學生は縦横に走る風船玉の様である、そこに性的の危険なる誘惑があり、妄想に流れる缺點がある。

我等は高尚なる精神を持つて、この誘惑物の束縛を脱し吾等の前途を公明にしなければならぬ。

現代の學生が昔日の學生に比して剛健なる氣風にとほしいと云ふ非難のあるのは、文明の進歩の弊害であつても吾等は、この弊害に陥らぬだけの強き精神を維持して、目的達成に盡力しなければならぬ。

薄志弱行の輩は何等の事業をもなすことは出来ない。學生たる者は、學校教師を待たずに、あらゆる方面に最大の努力をほらひ、從來の倫安姑息の惡風を改善して國家社會の爲に盡力し得る有用の人物となる事が吾等學生の行くべき道ではなからうか。



# 學 習 の 希 望

大分縣立日出高等女學校 四ノ二 阿 部 靜 子

「今日こそは清い心で働かせよう、終日皆の上に幸多く愉快に笑つて過せませう……」朝の祈りの終つた後の清らかな平和な心で書をひもとく體を明方のすがすがしい大氣が流れ心の奥底まで浸してくれます。朝四時半からの一時間は汽車通學をする私にとつて最も大切な時間で、静寂な然し總てが一日の務めを始めやうとする以前のみなざる様な力強い中で學ぶことが出来るのを感謝せずにはゐられません。かうした朝の勉強は夕と違ひ心身共に回復されてゐる爲、暗記ものなど特によく覚えられ様ですし、數學ですとどうしても出来なかつたのさへやさしく解答し得ることさへしばしばあります。ですから夜おそくまで睡眼をこすつて無理に頭をつからせることをせずによろしいと思ひます。勉強法としては暗記ものは一度でも多く讀むことが必要です。代數等ですと前がわからずに進んだら先へはどうしてもゆけませんから不審の點は何處までも研究し、質問し、よくわかるやうにしておかねばなりません。英語は通常使用せぬ爲忘れ易いものですから注意し基礎となる單語を多く知る必要があると思ひます。これらは一、二の例に過ぎませんが、この學課に於ても眞面目に、自ら進ん

でなし、その時その時になすことに熱中することが特に大切なことでせう。人により不得手の學課も違ひませうがその課目は特別苦心し努力し、たゆまずうまうまに人一倍勵みませう。かうして體に氣をつけ心身共調和發達をさせねばなりません。「健全なる精神は健全なる身體に宿る」ことを覺悟して。昔から英雄、偉人として崇められる人々の努力はどれ程か知れません。まして私達の如き凡人に於て……。或程度までの努力は眞の努力でないことを理解し、時ををしみ美しい心の持主となり、内に錦を飾りたいものです。日本は現在最も苦しい立場にあり、財政の困難及び其の他の大切な地位に置かれてゐることを知り、將來の私達の責任のます／＼おもくなることを自覺して、日々を進んで行きたいものです。此の好期を取逃がさぬやうに自重して勉強に、運動に勢出し、修養をつみたいとつく／＼思つてゐます。こんな希望を持ち、さうして實行に入らうとしてゐる私は、夕にはもういくつかの悔に泣かねばなりません。朝の祈りを破つたするものとして悲ますにはおられません。實行の何より大事なことを知りうまく實行し得る日は何時のこととせう。けれども一日の感謝を捧げ心から愉快に過せる日の一日も早いことを祈りつゝ、女らしい女になつて行きませう。

x x x x x x x x

## 我が學習の心得

大分縣立日出高等女學校 第四學年 吉井ナカ

女學生としての私共は女學校の科目が小學校よりも多く、また、今迄とは違つて色々氣をつけねばならないが、勉學の仕方にも餘程しつかりした注意が必要であります。第一には唯先生から習つた事柄を其の通りにおぼれると云ふ事ではなくて、自分から進んで考へ、研究して行く様になければなりません。それがほんとの學習の仕方でありまして、さうしてこそ血となり肉となるのであります。例へば或學科で新しい事が出たとすれば、之は他の學科で習つたごの事に關係があるとか、或はごういふ風に結びつけられる事であらうといふ事を自分で考へる様にしたいのです。國語でも唯其の中の字が讀めて、講釋が出来るといふ様な事りでなく、或は修身のある事に關係してをるとか、歴史や、地理や、理科などのごのこれに結びついて來るとかいふ様な事を心付いてゆかなくてはなりません。少しでも、心付があつたならば、直に其の方を調べて頭の中にまごまつた知識をこしらへる事が大變大事であります。かうすれば自分の頭で勉強して行く、せがついて、大變い、結果を來たします、第二には色々の知識がぼんやり分つてをるといふだけでなく、之がハッキリしめくゝりのついた

立派な知識にならなければなりません。それが爲には或一課を學んだならば、其の中にはごういふ事とごういふ事が教へられてあるとかいふ事を、種々な方面から自分自身でまごめて見る必要がありません。之をしない人は自分ではよくわかつてゐるつもりでも、實際は亂れた知識に過ぎなかつたり、肝心のところがぬけて、さうまでしないで、様などが記憶されたりして居る様なつまらぬ知識になつたりするので、第三には書物の中に出て來る實物については、出來得る丈けの實物を知るといふ事に工夫したいと思ひます。之は先生も十分御注意下さつて居る事でせうが、私達も其の方に十分注意しなければなりません。殊に理科等の方では、本に出てくるものはさう珍らしいものは少く、少し氣をつけてゐれば容易に其の實物にふれる事の出來る様なものが多いのであります。例へば菜の花を取つて、菜の花を習ひ、また直に櫻の花を取つて實地に比較して見ると云ふ様な深い勉強の仕方ではなくてはなりません。實物についてよく知らない人が少くないのは此の點の勉強の仕方が足りない爲だらうと思ひます。第四には教科書の中に出て來る挿繪とか圖表とかをしっかりと氣をつけて見る事です。之は大變大切な事で段々高尚な本を讀む様になれば、挿繪及び圖表が大變大事なものになつてくるのです。之に氣をつけないで勉強するのは極良くない勉強の仕方でありまして、多くの人の中には本の中の挿繪を、軽い楽しみ、或は添物の様に思つたりする人が少くないですが、もう女學校の様な程度の高い教科書を讀む時には、そんな幼稚な本の讀方をしてはなりません。以上の四つの點は女學生

らしい注意をして最も主な事であらうと思ひます、此の外一般の注意として（勉學に於ける心得）次に少し許り記します、勉強は成る可く朝早くする様にして夜更かしの勉強はさりなければなりません、ごんな少しの時間でも勉強は出来るのでありますから、成る可く夜の、疲を休める時間迄も勉強のために費すと云ふ事はさけた方がよいだらうと思ひます、また必ず目的を立て決して氣を散らさぬ様に目的に向つて進んで行く事が大切であらうと思ひます、また勉強の途中に嫌氣のさすと言ふ事は大がいの人にあり勝な事で其の嫌氣のさした時が一番大切でそれに打ち勝つ力を出さなければどうして長続きの出来る事は有りません、また豫習復習は必ずやる様に心掛けなければなりません、それが一方丈に長じない様に、兩者の同一的發達に力を用ひねば立派な勉學にはならないだらうと思ひます、そして豫習は必ず疑問の起る様な真面目な仕方ではなくてはなりません、疑問の起らぬ様な豫習では其の仕甲斐もなく、其の間に要した時間も無駄時間となつてしまひます、之等の事が大體に主な心得であります、次に記す事は更に一層大事な事でよく注意したい事であらうと思ひます、それは一つでも嫌な學科のない様にとめる事です、之は實際私共に取つて最も大切な事で其の嫌な學科を好きにするには次の事等が必要であらうと思ひます、どの學科も皆立派な人格を作る爲に必要である事を知りまた夫々何處かに面白味のある事を見出せばよいだらうと思ひます、次に其の嫌な學科が好きでくたまらぬと思つて見れば「愛する心は如何なる難事をも征服する」の教へ通り其の學科が好きになる事は勿論であらうと思ひます。

## 修 學

大分縣立日出高等女學校 四ノ二 菅 野 力 ガ

私達が學を修めるに先づ大切な事は真面目な豫習復習だらうと思ひます、登校する迄に其の日に學ぶ所を其日の課目全体にわたつて一通り十分豫習して其時に疑點が起つたらそれを學校で習つて疑を解くと云ふ様にすると登校するにも楽しみになり又教室でも真面目に先生の講話を聞く様になります、従つてよく學を修められます一日の課業を終へて歸つたら其の日に習つただけは一應復習すると豫習の時の疑點も解けて一日學んだ事を反省して一層よく憶えられるだらうと思ひます、もし復習した時に疑が起つたら、必ず次の日にお友達なり、先生に精しく尋ねてわかる迄聞く事もよいと思ひます、又復習の一として學校で學ぶ時に雜記帳に書いておいて家に歸つてノートするとよからうと思ひます、さうすると手帳も立派に整理されよい復習も出来るだらうと思ひます、然しそれは毎日々々ノートして行かないとどうかすると怠け易いから必ず其日中にする事が必要だらうと思ひます。

それから又實際の事物を見て研究して行く事も十分學を修める事ができると思ひます、理科であつたら材料の手に入る物はなるべく材料について學ぶと興味が出来てよく憶えられる従つて學業を勵む

様にならうと思ひます、又珍らしい物が目にかゝつたらそれを材料に研究し又は持つて行つて先生にお尋ねする事もその一例だらうと思ひます、其の他何によらず實際の事物と對照して研究すると研究熱がわき興味が出て面白く愉快に學を修める事が出来る事と思ひます、又課外に圖書室の本を讀んだりよい雜誌例へば偉人の成功談を讀んだり平家物語等の歴史書讀んだりすると面白い中に自然と學を修める事が出来るだらうと思ひます、こんな風にして熱心に豫習復習をし日常目にふれる物に對して注意深く研究して十分に學を修めたいと思ひます。

## 學問の心得

大分縣立日出高等女學校 四ノ一 松野 豐子

現在の世の中で一番賞ばれる物は何であるか？それは言ふ迄もなく學問であらう。之をなほ一そう具體的に言へば勉強であり、其の勉強をなほ一そう具體的に言へば數學の勉強、國語の勉強と言ふ様に此の外種々な勉強があるであらう。其の種々な勉強を一まどめにして考へて見ると、人間は勉強すればする程能力を増進させる事は言ふまでもあるまい。然し同じ勉強にも上手な勉強をしたのと下手

な勉強をしたのとは最後に大なる差を生ずるものである。それは我々が日常經驗する事である。其の上手な勉強と下手な勉強とは如何なる點で異なるかと言へば其の物の主眼點をうまくつかみ得るか得ないかに依つて上手、下手が定まるのである。上手な勉強は誰でも希望する事であるが餘程勉強に熟練しなければ其の主眼點はつかみ得ないのである。やはり日常種々な書物をたくさん手に取つて見るのが大事な事である。然し種々な書物と言つても仲々手に入り難い場合がないでもない。そんな時には他の人に借りたり、書物屋に行つて見たり、圖書館等に行つて見たりするのも良い事である。又勉強をするに邊りがさわがしかつたならば心か散つて仲々出来にくいものである。なるべく靜肅な處を選ぶのも必要である。然し幾ら邊りが靜肅であつても自分の心が少しも落付かずにさわ／＼してゐたならば良い結果を得る物でない。第一に机の前に向つて本でも開いたならば初めの十分間位は精神をおちつけて然る後に始めるのも大事な事である。餘り長い間勉強しても一定の時間以上續けたならばそれ以上は頭に這入る物ではない。それであるからかやうな場合には休憩する事も必要である。唯續け様に勉強しても一定の量丈しか頭に入らずに後は皆無駄な勉強になるのであるから一心にする時にはして、休む時には正しく休むのが大切である。人間が休まずに仕事をしたならば日に日に体が衰弱して最後にはやりつけられてしまふのである。又最後に學問をきらふ様になつてなまけるのは一番悪い事である。だから常々眞面目に勉強をして行つたならばだん／＼と興味も起つて來るので自然と研究に研究を重ねる様になる。



## 學 修 法

大分縣立日出高等女學校 第四學年 永山美彌子

勉強は復習が主だといふ人もありますが、尋常三四年まではそれでもいいでせう、けれど相當の智識を得た私達としては、やっぱり自分から進んでする豫習を主とし、復習は一通りで済みたいと思ひます、勉強するのは経験からいつても出来る人は朝が一番よいと思ひますが、女子である私達は朝は何彼と忙しい事ですから晩に致します。

學校では云ふまでもありませんが、先生の講義はよく聞いてゐて、大切だと思ふ事は雑記帳又は定めてあるノートに、手早く書き留めておきます、さうして晩家でノートに整理します、それは大切な所だけを筆記しておいたのですから、其のまゝでは足りないところも有りますし、又一寸わかり兼ねる所もありますから、書抜きをもとゝして自分の考へた事をつけたし、本等で調べて整理します、かうして一通り復習がすみましたら、明日の學科の豫習を致します、講讀は最初大意を考へながら読み一度で分らない時は二度位讀みます、それから今度はわからない所をノートに書きぬきながら讀みます、さうして辭書をくつて調べ最後にもう一度全体をよく讀んで頭に入れます、其の他教科書のあるも

のは、よく讀んで不審な點は著者、發行等のはつきりした、信用のおける参考書か何かによつて出来るだけ深く調べます、幾何、代數、算術等は、問題をよくよみ、圖をかいてみたり、よく考へたりして式をたて、解いてゆきます、かうして調べてどうしても分らない所は、やはりノートに書き抜くか又は何かのしるしをしておいて、學校で質問します。

學校では自分の調べてある事は遠慮なくごしく發表し、又疑問なところはよく呑み込んで了ふまで説明して戴いて自分のものにしてしまひます、こんなにして自分で發表したり、質問したりしたことはよく頭に残るもので大變よいことです。

又宿題が出た時は、出来るだけのことをして調べ、必ずして行くやうにします、記憶にしましても機械的ではなく論理的記憶でありたいと思ひます。

勉強時間も長くかゝつてぐす／＼するよりも、短い時間みつしりした方が餘程よいと思ひます、先づ豫習復習ともで一時間半乃至二時間位が適當でせう。

□ □ □ □ □ □ □ □

## 學 習 の 心 得

大分縣立日出高等女學校 四ノ一 井尻千鶴子

學習の結果、成績に於て差を生ずると言ふことは、その人の天性にもよりますが、又個人々々の學習に對する心得如何によつても大なる差を生じてくるのであります。例へば此處に同程度の頭腦を有する甲、乙二生徒が同時刻より同時開同様に眞面目に熱心に學習してその成績を調査の結果甲、乙に於て二十點の差を生じました。是は全く一人が學習に對する心得を誤つてゐた爲であります。是によつても如何なる心得の元に學習したらよいかといふ必要を生じてくるのであります。

學習の心得として先づ第一に大切なる事は學習する時の態度であります、姿勢正しく座し又は腰掛けてする事が大切です、第二には時刻及び時間であります、學習する時刻は朝早く又は午前中が最も好い、夜の眠い時にどんなに一生懸命にしてもそれだけ頭中には入らぬ、又幾ら覺わても直ぐに忘れてしまふ、故に夜の眠い時に無理に一時間するよりも眠い時には熟睡して疲をいやし頭中をさわやかにして朝早く起きて新鮮なる大氣に觸れ三十分間の方が効果が多いと思ひます、又午前中より午後になると頭が疲れてゐる上に殊に夏になると暑氣烈しき爲落着いた充分なる學習をする事は出

來ないでせう、次に學習の時間は數時間續けてするのも研究熱を冷却させないで好いでせうが又時間を切つて一寸休憩して又續けるのも疲れず又厭かすに好い事だらうと思ひます、第三に學習するにはその學課に對して専心に眞面目にする事であり、遊び半分の學習や又種々な他の事許り考へつゝ、學習するのでは効果が少い、又心がどうしても落着かぬ時等は學習の前に二三分間でも目を閉ぢて默然としてゐると次第に心に落着が出來て來ます、第四には其學課に對して興味を持つて學習する事であり、始から未だよく會得出來ない中から嫌ひ嫌ひで唯やつても一層嫌ひになつて終には學習が怠り勝となつて來ます、嫌ひな學課には特に注意し努めて興味を持つて懸命に學習する事が必要であります、かくして努力が積れば結果として嫌ひな學課も次第に好になり興味も出來て來て面白くなり學習するので成績もよくなつて來ます、第五には創造力を養ふ事に努める事であり、學校で習ひ教へられた事を唯それだけ一生懸命暗誦して詰込むだけでなく自分から進んで研究する即ち自學自習の力を養ふ様に努力する事が大切です、第六には常に復習豫習を怠らぬ様に注意し今日習つた事は今日總ての事を復習して頭に入れてしまつてそれから明日の豫習に移る事が大切です、豫習はよく出來るが復習が常に怠り勝になり易い者です、だから急に考査等があつた場合に復習が足らぬと失敗します、又明日が試験といふ夜になつて一生懸命に骨折つて詰め込むよりも毎日々々僅づゝこつゝと規律正しく怠らずに復習して行く事が學習する上について最も必要な事であり、

## 學窓から觀た現實社會

大分縣立宇佐中學校 五年 高橋重樹

觀察は主觀によつて決する、主觀が異なれば従つて同一主題に對する觀察も異つてくる。此處に林檎が在る。空腹なものは美味さうだと觀る。満腹なものは美しいなあと觀る。又此處に野末の傾いた田舎家が在る。書趣的に觀れば一種の美的感情を意識させるが生活といふ點から實用的に觀れば一種の不快な感情を聯想させる。同じ林檎を或は美味からうと觀、或は美しいなあと觀るのも一つは空腹であり、一は満腹であるといふ異つた境遇によるのでその主觀が前者は味覺に傾き後者は色覺に傾いてきたからである。即ち主觀は又その境遇に依つて著しく左右されるものである。それで結局觀察は境遇に支配されることになる。現實社會に就いての觀察に關しても同様でなければならぬ。實社會に生活する人々の社會觀と學窓に在る吾等の社會觀とは従つて全くその撥を異にしてゐる筈だ。彼は社會の斷面を觀、我は社會の表面を觀てゐるのだから。

一體學校は我等の所謂現實社會とは關係の極めて少ない特種な世界である。少くとも中等學校以下は全然現實の圏外に置かれてゐるのである。その學窓から觀た現實社會……斯う考へると結局學窓から觀得る現實社會は唯その表面だけに過ぎない、その真相に就いては想像する事を許されるだけだ。

「夜目遠目」といはれてをる通り總て物は間隔を距て、觀ればその缺點や汚醜が隠れて美しく見えるものだ。學生時代は十人が十人とも現實の社會に憧れる。現實社會から離れてをるので現實社會が美しく見えるからだ。一旦社會に踏み出せばすつかり期待が裏切られて始めの學生時代を追憶する。人生の中で學生時代が一番いゝ、も一度學生時代に返つてみたいといふ。よく先輩からきかされる矛盾だ。矛盾といへば矛盾かも知れないが當然の歸着であるのだ。

學窓から觀た現實社會は恰も東海道線の汽車の上から觀た富士山のやうなものだ。何といふ美しい山だらうと思つて登つて見れば凹凸だらけで普通の山と少しも變りはない。だからといつて失望したら、それは失望する人の罪だ。若し現實社會に踏み出して失望する人があつたらそれはその人の罪だ。失望は現實が期待以下だつた時に起る。現實されない様な期待は空想だ。つまり失望は空想の罪であつて自らを責める外他を怨む事は出来ない。

遠望が如何に美しいからといつて富士山は矢張り普通の山と同じ土砂から成つてをることは近づくなくても想像は出来る筈だ。現實社會の外觀が如何に美しさうでもどうせ人間——自分を一番する即ち利己的——その人間の造つた世界ではないか。當らずとも遠からずの想像はつく筈ではないだろうか。

併しながら富士山の表面が如何に凹凸だらけでも如何に荒涼たるものであらうとも或は湖畔の樹蔭

に楽しいキャンピングも出来るのだ。實社會だつて吾等の暮しやう一つでどんな愉快な生活も不可能ではないと思ふ。成る程人間には特に立派なといふ程のものは少ないが併し又特に悪いといふ程のものも少ないものだ。「渡る世間に鬼は無い」と古から言はれてをる言葉も這般の事情を穿つてをると思はれる。知足安分して相應の努力をさへ惜まないならば必ずや社會は吾等のために憩ふべきルートを開いて呉れるであらうと信ずる。

斯う言へば私の社會觀はどつちかといへば樂觀的なものであることになる。事實私は實社會といふ未知の世界に憧れてをる一人だ。併し嚮にも言つた様に實社會が美しくロマンチックに見るといふだけで直ちに實社會の真相をそんなものと断定して實社會に憧れてゐるのではない心意である。私は物の外観が時にその實際と正反對な場合さへあることを知つてもをるし經驗もしてをる。

學校は實際特別な世界だ。人間の造つた世界としては寧ろ變態的なものであるかも知れない。文字通り「*the world of the school*」の眞理が萬事に行はれる世界だ。眞理と眞實とを拵げる、情實もなければ權力もない。正しい事は飽迄正しい事とし、曲つた事は飽迄曲つた事として些の矛盾も撞着もその間に容れられない世界だ。従つてそこには不合理な結局からくる不満もない。この我等の理想と一致した學園の窓から現實社會を觀るに當つて若しその學校に對するやうな態度を以つて臨むならばその觀が實際と或は雪と墨程に違つてゐても當然といはねばならぬ。

近來……或は古來からかも知れないが……現實社會といふ言葉は恰も「罪惡社會」といふ意味に用ひられてゐるかの感がある。又現實といふ語は人生の果敢ないといふことを含ませた厭世的な響を持つてをる。即ち社會に出た人々は我等が一種の憧憬すら感じてをる社會を罪惡に彩られた果敢ない世界だと歎いてをるのだ。何といふ大きい懸隔ではないか。

社會そこには幾千年來の傳統と歴史がある。教養、境遇、利害關係等それ等のものを異にして多くの人々が生存のための激しい競争をしてをる「*the struggle for existence*」ともなり得る場合が或る意味に於ては有るかも知れない。

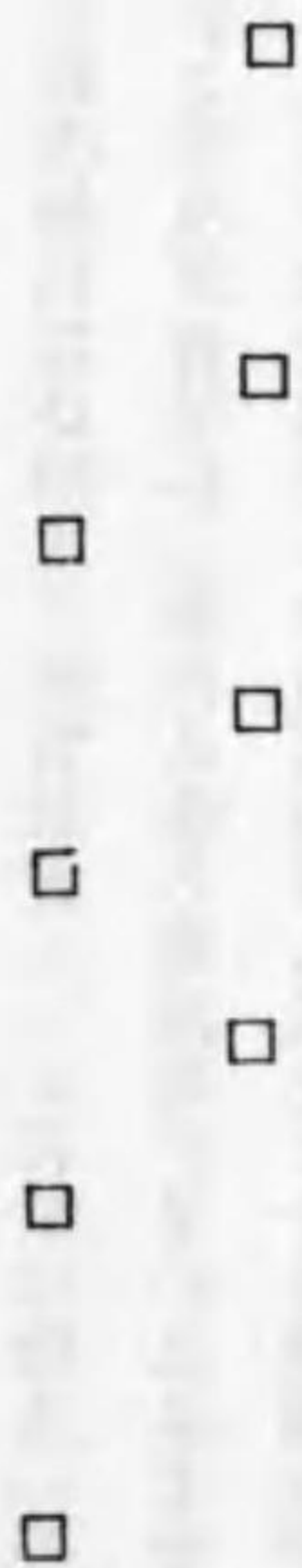
吾等が社會を知る唯一の手段たる新聞は或は我が國の經濟國難を報じ或は思想國難を報じ暗澹たる社會相を吾等の前に披瀝してをる。生存競争に敗れ、惡思想に溺惑し、遂に罪惡を犯す。これが先づ犯罪に至る……特種なものは別だが……三階梯だ。罪惡の世界だといつて歎くのも無理ではないと思はれる。

併し社會はその罪惡の一面だけを有し、その罪惡に對する他の一面を有してはゐないだらうか？ 茲に私の社會に對する希望が繋がれてゐるのである。私には一途に社會を歎く人はまだその他の一面のある事を發見せず徒にその半面たる罪惡の一面にのみ首を突込んでゐやしないかと思はる。

人生の眞意義に觸れるのはどうしても吾等が實社會に踏み込んだ後である。眞に深刻な幸福を味ふ

のは確かにそれから後に違ひない。その社会には面倒くさい種々の事情があつて氣儘にはならぬだらう。併しそんな事で社会を怨むやつではまだ一人前の人間として餘り頭が幼稚だと思ふ。悲哀と忍従の半面があつて始めて幸福の意義が有るのではないだらうか。人生の全部が幸福だつたらそれは結局人生の全部がゼロだ。だのに多くの人は此の異を敢てしてをるやうだ。自分の人生の全部が幸福でない自分の人生を不幸だといつて歎く。歎くから本當に不幸になるのだ。

大臣にならう、大將にならうといふ希望はいふことだと思ふ。併吾等はその前に社会を知らねばならぬ。社会を見ずに漠然と考へた希望は反つて人生を破綻に導き易い。富士山の頂上だけ目指しては足許に躓く。エルサレムは遠いのだ。悠々路々の名勝古蹟を尋ねて旅情を慰めて行かねばならぬ。苦しい日厭な日もあらう。その爲にその旅行全體が苦しい厭な旅だといふわけにはゆかぬ。結局社会に對する人の不満は人生に對する敬虔の念が足りない所から起るのだ。人生を嚴肅に踏んで行かうといふ氣持もさへ失はない限り矢張現實社会に於ても「真理がきちん」と行はれて行くものだと思ふ。此が學窓にをる私の社会観だ。(終)



## 青年學生は如何に人生を見るべきか

大分縣立宇佐中學校 五年 安東 哲男

學窓にあり薰陶を受けつゝある吾等青年學徒は實際の世間といふものと關係の餘り近い爲めに眞に人生に對して深い理解を持ち難い。併し今迄學んで來た中には實社会の模様も如實に書籍より知つた事もあり、聖賢の言行より得た大きな標準の智識といふものがある。實世間に對しては丁度温室の中から冬の荒野を眺めるやうな感じがする。學校で教はる事は皆道徳に叶つた聖賢の正道である。然るに實世間に於ては異端邪說横行し殘忍な事實を見聞しないではない。これは自分は人間であることを自覺してゐるが、己が天職と人生の目的とを失却した不良分子の存するが爲めの禍であると言はねばならぬ。されば孰れが人生の正道かと言へば勿論前者である。如何に世論錯雜困惑し惡化してゐるやうに見ても人生は決して陋劣な事に汲々とする様な下卑なものではないことを知らねばならぬ。只現世の情勢を一瞥したばかりで人生はその儘と輕察して眞似るやうなことではいけない。「誠者天之道也」と中庸にある。必ず不動の誠實は一定判斷と人生に對する正しい理解とをもつて社会と照應して批判し得る迄の覺悟を必要とする。人生を完全にさせるものは勤勞に過ぎない。敗戦國獨逸を見よ、一つに之を以て佛人否世界人の豫期を裏切つたではないか。限られた五十年の人生に於

て不朽の偉業といふものは終始一貫誠實と不屈との勤勞家に依つて爲されるのだ。人生は惡を爲して何時迄も其の勢が續いて幸福を贏ち得る程自由で浮薄な寸夢とは全く異つてゐる。亦因果應報は人生の附物である。積善の家には餘慶ありと言はずや。

飲酒美食等徒に口腹の慾を充し享樂氣分にひたる事は人生と兩立するものでない。秩序節制無き人生は獸性に他ならぬ。虚榮心に驅られて寸夢の實現をはかつたりして醉生夢死する敢果無き人生たらず堅忍不拔の精神を以て天賦の職責を果さん爲めには水火を避けず、臣となりて君の爲めに、子となりては親の爲めに死するが如き義理固き人間とならねば何等萬物の靈長たる價値はないであらう。

「人間は感情の動物である」と云ふ。固より菓子を興へらるれば犬と雖も尾を振り、愛撫を受ければ猫と雖も目をつむる。然し人生の特權は情意の交換を興へられたのみでなく、宗教的嚴正味を帯びてゐることである。絶體的に慚愧心の有ることである。愛と同情との無い人生は冷酷である。幸福なるが爲めには暖かき人生を索めよ。それが爲めには他人の恩惠我以外の人の同情に感謝し、捨身奉仕することである。

吾人が最も敬虔莊重な極みは敬神崇祖の祭に際して無量の念に打たれる神々しさである。吾が國は皇祖皇宗の洪大無邊の聖徳を奉戴し開闢以來その國民性たるや忠孝に基し萬古千歳嚴肅に、國體國史の成立上の要旨をなし、理想あり、實力ある所の偉大なる愛國の力のよりて生ずる所以のものである。

る。吾々日本青年は眞に價値ある人生の正體を國史に學び得る幸を持つてゐる事を喜ばねばならぬ。人間は惡に傾き易いが眞の意味に於ては理想を求めて己まない。しかし直ちに理想の實現をはかる事の危険を知らねばならぬ。理想に對して絶望を懷くものが益々己をして窮せしむるものであるから誠に吾人は明快な反省、判斷と自重とを以てせねば自己を失し易いものである。人生の坂路に臨んでは車よりも心を牽ひて登ることに困難するのである。

故に吾人は人生といふものを直視してその性質をよく見とゞけ、人生の含む性質、はたらき、意義價値といふものを一層豊になさねばならぬ。

人生が向上するには高尚なる趣味と遠大なる志望と小心翼翼たる事とが肝要である。而して曠野蒼海の渺茫たるにゆき、山川の盤石不息なるに戒しめ、自強して息まざることをモットーにしなければならぬ。要するに吾人は人生を不斷にして嚴肅なる物と見るべきである。ミレーの晩鐘に見るやうに

## 日本青年としての吾等の覺悟

大分縣立宇佐中學校 五年 佐藤善昭

吾等は現代の學生である。學校の教育や周圍の狀況は、吾等をして現代的に修養させてゐる。故に

吾等自身も亦現代的に修養することを忘れてはならぬ。何故に吾等は現代的に修養せねばならぬか、吾人は現代に續く近き將來に於て、活動すべく運命附けられてゐるからである。活動力に燃ゆる吾人は、其の背景として時代を研究し、現代の世界に着眼すべきである。そして列強のデリケートな有機的關係に覺め、活動の源泉たる歴史即ち、現代と過去と將來とを示す偉大な結合知識を知り、現世に對する敏感な觀念がなくてはならぬ。

次に考ふべきは吾が國民性である萬國旗の如く千差萬別の國民性の斑點は、圓い世界を一國から其の國境へ、緩衝地帯から他國へと圍繞してゐる。特に定評ある大和魂：此こそ吾等の祖先が僅かに形ばかりの國家を建てた其の日から今日までに、多くの辛苦を嘗めて鍛へ上げた寶玉にも均しいものであつて、數多の精神が刻み込まれ、惟神の大道を高らかに物語つてゐる。國民性は固より、其の國家を形成する國家の民の通有性であるが、如何に我が國が比較的優越なる國民性を有してゐるとは言へ缺陷のある事は免れ得ない事實である。例へば器局が狭いとか、小成に易んじ易いとか、熱し易く冷め易いとか云ふ短所がある。思ふに一國の文化盛衰は、國民の有する性情に深い關係があることは歴史の明らかに示す所である。國體及び國史の成立の要諦にして、且其れによつて涵養せらるゝ國民性は、國民の過去に於ける成跡、即ち國民の成就せし偉大な事業、日本民族祖先の理想、活動に對する國民の憧憬熱情をして、自然偉大なる愛國の力となして發現させざるを得ない。我が民族的精神と祖

國に對する愛情とを失はない限り、我が國體と國史と、祖先の遺訓とは、必ず偉大な愛國心となつて、國民の元氣を鼓舞するであらう。故に苟も國家の隆盛と繁榮とを意圖する者は、宜しく深く省察して國民性の改善と向上とに心を碎き、其の美點を助長し發揮することに努力すべきである。最後に臨み忘私奉公の重大なる責任を忘れてはならぬ。個人が全く自己を忘れて團體の爲に奉仕する點に於て、其の結合は益々鞏固となり、延いては各個人が眞の幸福を享受し得るのである。故に忘私奉公は國家生活の要素にして、國家の振否の由つて掛る所である。然るに國民が漸次自己を本位とする思想に墮し、政治、經濟、實業、あらゆる方面に於て其の醜狀を暴露してゐるのは長大息に堪へぬ。今にして覺醒する所がなくては、我が國の將來は誠に寒心せざるを得ない。利己本位者達に頂門の金槌とも稱すべき此の犠牲的精神こそ、昭和維新に處する國民の奉すべき標語である。我等は昭和新帝の宏謀を翼賛し奉るべく大なる覺悟と用意とを保持して、一層の修養に努めねばならぬ。一九二九、十一、二〇

## 學生の行くべき道

大分縣立宇佐中學校 五ノ三 吉松 鮮 二一 郎

國家には國家の道があり、社會には社會の道があると同時に學生には學生の行くべき道がある。

學生時代は一生涯中に於ての根柢を成すものである、従つて人の成功、不成功は實に學生時代に決定せられる、その行くべき道によつては、左にも或は右にも進み得るのである、故にその方向を過たず進むことは、最も必要なことであらう、先づ學生の本分を守つて行く様に努力しよう、學生たる者は知識を磨き、人格を修養して、而して後國家の中堅として立つて行くのである、學校に於て授けられる諸學科は皆我が帝國の國民として最も必要な知識を與へて呉れるのである、されば、自己の好きな學課のみに偏することなく、一樣に興味を抱いて學ぶべきである。

學生は思想純潔にして、外物の患を多く受けたくない、而して胸裡には幾多の理想を抱き、希望に輝いてゐる、この理想を見つめて他迄初一念を貫く者が成功者となり得るのである。この夢は誠にはかないものであるかも知れない、然し不撓不屈の精神を以て、之を貫徹する意氣を養ふことは、學生たる者の進むべき一大方針とも云ふべきであらう。

世の中には幾多の障害がある、最も惡むべきは惡思想で、この潔白なる學生の精神を動もすれば染めんとしてゐる。

英國の學生は如何なる外物に面しても「我は大英帝國の國民である」との信念を持つてゐるとのことである、この點は、吾々學生の大いに學ぶべきところであらう。

如何なる魔の手が來やうとも、剛健なる精神を養ひ置かば、寸毫も恐るゝに足らない、而して更に

「青年到る處に青山あり」の氣概を以て、大いに海外さして勇飛すべきだ。

更に再び斷言する、學生の本分を完ふし、理想を見つめて、不撓不屈の努力を爲して行くのが、學生の行くべき道である。

## 教育は何の爲に受くか

大分縣立宇佐中學校 竹 下 忠 實

教育は何の爲に受くかと言ふ事に付いて考へた者は教育を受ける者の多い其の中で恐らく幾人あるであらうか、殆んど無いと言つてよいだらう。

又今假りに問ふた所で、それは勿論種々の學科を覺む智識を練り技術に馴れ精神を修養する爲である、そして結局立身出世する爲であると言ふに相違なからう。

誠にそうかも知れない、だがまだそれは土臺を作つたに過ぎない。最後の目的は其の土臺を利用して立派な家屋を建てねばならぬ。然し世の大部分の者は其の土臺だけで十分と考へて居る。これは大いなる考違ひだ、そんな事なら寧ろ教育を受けぬ方がましだ、一層深くつきつめれば逆つて受ける方が悪い位だ。世のあちらこちに注意人物、又は危険人物として世人の目標となつてゐる者等は皆此



の眞の目的を知らず或は甚だしきに至つては、これを無視して教育を受けた者等だ。我々人類として又日本人として、人格の完成及び大義名分を明きらかにする事に努力せず徒らに頭のみを練つては、教育の目的に反してゐるのみならず、人類としての價値は全く認めざる事は出来ない。

我々は教育の目的を貫徹する爲の手段と其の目的とを區別すべきだ、そして此の手段に、とらはれてしまつてはならぬ。

だから我々の教育は、是等を明きらかにし、智識を豊富にし、思想を確實にし、世の迷よへる人々を善導し一方自ら惡道に陥らぬ様にして爰に堅實な人格を作る爲である。

一國家を形成する各分子の堅實なる事はやがて其の國家の堅實なる事を知るに喋々たる論を俟たぬ。故に重さねて言ふ我々の教育の目的は唯健全なる分子を作るに外ならぬのである。

## 何處に光りを求めん

大分縣立宇佐中學校 吉 田 篤

富士山の絶頂に登つて、日の出の壯觀を拜し様とする者は、彼の赫々たる朝日の花々しさ、山上の壯大な景を想像しながら、前夜の中に、あらゆる仕度を終へ、深夜より危険を冒し、艱難を冒して登

山するか、前日中腹まで登つて其處で不自由な一夜を過すかする。兩者何れも御來光を拜する、其の前日既に十分な準備をなして居り、多大な困難を突破して登山するには變りはない。而して時機、即ち晴天である事によつて其の望みは達しられる。人生に光を求めるのもやはり同じだ。十分な準備即ち基礎を必要とし、忍耐を必要とし、兩者は機に投ずるの明を有して始めて、此處に光を得るのだ。此の三つを有しないで、光を求め様とするのは、空中に樓閣を建て様とし、砂上に城塞を築き、其の堅牢である事を望む様なものだ。確乎たる基礎、忍耐力、投機の明を養成するものは即ち學問である。人には凡て長所短所がある。短所を改めて良くして行く事は勿論よい事であるが、其れと同時に其の長する所を飽迄發揮し、延ばして短所を補ふ事を忘れてはならない。而して其の長所に於て最後に人生に光を得る事が出来るのである。が、自分の長所短所を知るにはやはり、其處に學問を必要とする。活きた學問を。故に、吾等は此處に光を求める爲め、學問に吾等の前半生を捧げる事を決して惜まない。世には其の一生を學問に捧げ、然も其の中に最大の光を求め得た人も少くない。學問其のものも即ち光であるのだ。

學問の現實生活に光を與へるに對して、精神生活に、未來に對して光を人生に與へるものに宗教がある。信仰に依つて光を得るのである。世には往々にして學問と宗教即ち信仰とは相容れない様に見えるが、大いに間違つてゐる。學問と信仰は車の兩輪の様に相對立して、互ひに吾等に光を與

へてくれる。吾等は又學問宗教のもとにあつて始めて眞の人生に於ける光を求め得るのである。

## 何處に光を求めん

大分縣立宇佐中學校 第五學年 末 秀 道

「光明なき世界」吾人は是を暗黒世界と呼ぶ。暗黒世界に於ては吾人人類は勿論總ての生物の存在は不可能である、光は大自然の大部分であり慈悲の根源であるが故に「光は慈悲なり」の眞理は佛教に於て殊に善く見得られると思ふ。即ち釋迦は「光明遍照十方世界」と説いて光を以つて佛の慈愛を表現した。

現今聖天子の御惠の露は普く下々にまで及んで居ながらも尙ほ闇より闇へ暗黒より暗黒へとほゞむられ去る者の多いのは何故であらう、或人は云ふ「彼等は物質的に乏しきが故に」と然れどもナザレの聖は云つた、「空の鳥を見よ、彼等は求めずしても神は彼等に日々の糧を與ふ、又野の百合を見よ、ソロモンの榮華の極みも其のよそほひ此の花の一つだに若かざりき」と、故に物質的缺乏は決して彼等を暗黒面には誘はなかつた、然らば何故？彼等は暗より光を求め光に抱擁され光に攝取される事を知らないが爲である、罪惡と争闘と淫亂の都バビロンも或は此の光に依つて清められ淨化されたかも

知れない、光は闇から、暗い夜があつてこそ始めて明るい朝の光が認め得られる様に是等暗黒世界をさまよふ人々こそ始めて眞の光の價値が有り尊さが有り得るものである、是の故がデカルトは總の物を疑つて力強い光明に生きた。

眞の光明は彼の審美の憧憬者キーツの「戀愛とは永遠に是を追ひ求めて居る間だけが眞のそれであり是れを求め得た時は最早や人生の墓場である」と歌つた様にそんな一時的のものでは無い、眞の光は光に向つて光を求めつゝある時も光であり是を求め得て是に攝取され抱擁され是にひたつて居る時も亦眞の光明である。

然らば吾人は何處よりかゝる光明を求むべきか、或人曰く「智識より」「文化生活より」と。然れども如何せん明日の事すら否一分一秒先の事すら知り得ない智力よりして是の絶對的光を求むる事の餘りにも不可能な事實を、又如何せん「總ての途はローマへ」とまで言はれたローマ人、ピラミットに依つて表現される大埃及賦劍四百餘洲を震ひたる富と力の阿房宮の主も遂に何となくあきたらない不安な一生を終へた事實を、又或人は言ふ「自個より」と、然れども「昔今の美婦國色すら其の終は見ぐるしく關守に落ちおれ槍垣にさまよひ又は猿澤の池の藻屑にまとはれ馬冤が原の草葉にさらはれ」て唯一個の長恨歌となつて其の靈魂が肉体を去る時其の美貌も誇りも共に消失した事實を如何せん。然らば靈魂の有る限り未來永劫吾人の「光」となり得るものは何んぞや、曰く「絶對者」「神佛」と、

然り、如何に科學が進歩し文化が発達しやうとも絶對者に對しては一である否むしろ無である、然らば吾人は此の偉大なる光を如何にして求むべきか？「求めよ然らば與へられん」と云ふ言葉は此の場合餘り冷酷である。「自我」の力を信するトルストイでも彼の太陽が、求めずしても光と熱とを萬物に與へて居るのを知つて居るだらう、故に吾人は是の小さな存在をすら認められない人力を以つて此の餘りに廣大な光を求める心配はなかつた。光を光と悟つてそれに浴すれば是が即ち此の場合に於ける求める事である。

運命の片影すらも、求め得ない人類がかくして光を求め得て絶對者に對し彼のミレーに依つてわがき出された農夫の如き敬虔な心情の生じた時其處に信仰が生れ此の廣大なる光明の中に攝取される時其處に五十年の生涯を人生と自然の渴仰に捧げつくした俳聖芭蕉の如き感謝生活が營まれて來る、そして又偉大なる社會も永き藝術も！

吾人は此處に於て幸福に恵まれた其の日其の日を光明に向つて感謝と喜悅の管絃樂を以つて希望に満ち／＼美しく精進し向上する事を得るのである。

× × × × × × × × × × ×

## 何處に光を求めん

大分縣立宇佐中學校 第五學年 吉岡 泰

學びの力を身に添へて、希望の光をかゝやかさねばならない。其の希望の光の有る光明の世界への道、それは目には見えない、だが心の眼には見ゆる筈だ、確に見えなければならぬのだ。希望の世界への道が見えないと云ふのは、それは見えないのではなくて、眞の心の眼を開けて見ないからである。希望の世界への道を示す光は、何時もかゝやいて吾等に光の糸を投げてゐる。今私は、其の光の糸をさがして行きつゝある自分の姿が見えます。希望の國は光明の國だ、其のユートピアに行く途中の困難が前方に横たはつてゐる。だが光の糸は何處に？、安全な私の希望の光の糸は？、行けども／＼希望の光は、はるか彼方の空に輝くのみ。あゝ！我等の前途は燦然とかゝやいてゐるのだ。少しも早くあの明るく輝いてゐる希望の世界へ行きたい、だが如何に心はあせつても、現に我等はこの世界に通ずる道を……光の糸を……さがしてゐる身なのである。そして丁度暗い闇の中にある様に、何方に行つてよいやら分らない、一點の光をも持つてゐない爲に、と云つても、此のまゝ闇の中に居て動かなかつたならば、幾星霜流れて逝つても何處にも行けない、どうしても光の糸を手にして、そしてそれに依つて進まなければならぬのだ。あゝ！我が求めんとする光の糸は何處に？、現實は

か彼方の前方に輝いてゐる希望の光が見えるのに、どうしてすぐ求められないのだらう。そうだ!! 進まねばならぬ眞の心の眼を大きく開けて、我等は神に祈りを捧げて行けるまで行かねばならない。ある希望の光を得る爲に、さながら曙に輝く黄金色の光の様な希望の光をさがして!!

がたしとて思ひたゆまば何事も

なることあらじ人の世の中。

と歌はれた明治天皇の御製を清らかな心で歌ひながら。

## 何處に光を求めん

大分縣立宇佐中學校 第五學年 安倍千雄

我等は何處に如何にして光を求めんとするか、之人生の重大問題なり。抑大和民族は建國の當初より神武大帝の御弓の金鷄の光を國民精神の根源となし今日の大躍進を遂げ來れり。幾千年搖ぎ無き萬世一系の皇室こそ大和民族の中心目標とすべき光なり。

國民的絶對中心目標を有せざる國民の如何に悲惨なるかを見よ、彼等には生命財産の安定すら保證出來得ざる有様に非ずや。

宗教を人生最終の力と待むも皇室を尊崇奉體する精神も歸する所は同一にして國民精神を根源としたる強き背景を有し皇室の爲には貴き身命をすら鴻毛の輕きに比し尙劣らざる忠臣義士の美しき壯烈なる信念と行動とは期せずして神佛崇拜の精神と合致するものなり。

「心だに誠の道にかないなば祈らずとも神や守らん」。光は平時に於ては人格徳望の姿となり平和の偉人をなし一旦緩急の場合は男々しき大丈夫心と化し壯烈鬼神をも泣かしむる武士を生む、ペルサイエユ宮殿の花と咲き平和の基を固め、旅順港口の花と散つては軍神の譽を高む、脈々として流るゝ大和民族の光の發露なり。

我等は斯く貴き光を如何に實現し具体化すべきか。我等に課せられたる目前の問題に全勢力を集中したる躍進のタイムの連続にあり、向上、奮闘努力の瞬間の連続にあり。太陽が東より出づる以上奮闘努力の汗や涙は何時か何等かの姿にて實を結ぶべきものなりとの堅き信念を我等は常に有せり。則ち一の單語も、一句の思想も大なる意義を有すなるとするものなり。

## 青年學生は如何に人生を見るべきか

大分縣立宇佐中學校 第五學年 常盤 洸

時は移る。

流れ流れて、寸時も休まないのは烏兎の歩みである。吾等がこの學園の徒となつてから、早や五星

霜の月日は今將に過ぎんとしてゐる。聽て吾等も人生に巢立つ小鳥の味を知る事であらう。

人生とはどんなものであるか？

吾等は、如何にして生くべきであるか？

それは人生の一大疑問である。運命が人生を支配するか？それも又人生の重大問題である。しかしながら自分は運命を否定する。もし人生が運命に依つて、運命のまゝに動くものであつたならば、人間に人生に何の意義があるか？、人生に何の價值があるか？、運命のまゝに世の中が否人生が運んでゆくものであるならば、人間の努力も奮闘も凡ては無駄である。人生が運命に依つて支配されるものであるならば、人生ごあの鳥や馬のやうな動物の生活ごどれほど違ふであらうか？

吾等は運命を否定すべきである。そして吾等はすべからず運命は自ら創造すべきである。「吾等は到底運命に打勝つ事は出来ない」と言つて、運命に忍従するやうな者はつまり運命の擒となることであつて、どんな運命にも打勝たうと努力する者こそ人生の價值を創造する事が出来る。國家向上發展に努力奮闘する。そこに人生の價值がある。運命を創造するには何が必要であるか？、それには希望と努力と發奮とがあれば好い。希望と努力のある所に人生はある。

□ □ □ □ □

## 何處に光を求めん

大分縣立宇佐中學校第五學年

陸門半太郎

一、花も、葉も、若芽もみんな日に向ふ

花を溶びてこそ

伸びもし生きもする

まして人間は

明い人生觀に生きて

明い性格の持主となりませう。

が一面には

惡魔は暗黒より暗黒へと姿を現します

希望を達したいと思ふなら

暗黒から暗黒へとさまよはずに

何時も光の中を進め〜。

三、光の中を進まうと思へば

朝の人でなくてはならない

明い人生觀に生きる人は

みんな未來に輝く

朝の人でございます。

二、我等の希望は

光明の波の中を泳ぎます

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

## 何處に光を求めん

大分縣立宇佐中學校第五學年

丹 生 幸 夫

何處に光を求めん!!

野に!!山に!!大都市に!!

將又怒濤相嘯む大海に!!

光は吾等青年を迎へ

到る處に其の影を潜めて居る。

何處に光を求めん!!

牛の後追ふ田圃道

開拓の手未だ下らざる

黄金の花咲く原野にこそ

光の泉は影を潜めて居る。

何處に光を求めん!!

文化の粹の集る處

腕と腕、智力と智力の争ひ場所

煤煙漲る大都市にこそ

確かに光の泉は影を隠して居る。

何處に光を求めん!!

花々しき歴史を有する

廣大なる此の大海にこそ

怒る時でも風ぐ時でも

到る處に活躍の潮は流れて居る。

何處に光を求めん!!

若人よ奮つて努力せよ

光の泉の開拓者たれ

目ざす光の泉は盡くる事知らず

到る處に影を潜めて居る。

## 緊 縮

大分縣立宇佐中學校 第五學年 溝 次 三 郎

新聞紙の報するところによれば、非上歳相は財政緊縮に付き下の如き説明をなしたり、大正十一年に於ては歳入二十一億圓に對し、歳出は僅か十四億圓なりしが、現時に於ては十七億圓の歳出を計上せんか、收入に於て九千萬圓の不足となる、之を個人に適用して云へば、二千餘圓の收入ありし大正十一年に於ては、年一千四百圓を支出し、爾後收入が減じ一千六百圓程度に低下せしに關せず、猶一千七百圓の生活をなすと同様に、收入以上の生活をなすものにして、數理に明かなりと云ふべからず。國民たる者は宜しく、現時經濟難局の實情を自覺し、以て勤儉力行整理緊縮の實を擧げ、相助け相率ひ此の難局に善處する方法を講じ、以て國家永遠の繁榮と國民生活の安定を期圖せざるべからずと、一面は國家經濟にして、他面は家庭經濟なり、兩者の相異なる所無きにしも非すと雖も、時弊に割切なる若こると謂ふべし。

世界大戰後我國の財政經濟は不自然な膨脹を齎來し、現時の不況時代に於てすら、未だ國民は好景氣時代の情性に馴れ、依然として浮薄放漫に流れ、奢侈安逸に耽り、爲に產業界は萎微沈衰し、貿易は輸入超過を致し、我國は經濟的破産に戰慄すべき状態となり、經濟國難てふ雄叫は到處思想惡化の

傾向と相俟ち、今や經濟界に或は思想界に悲慘なる國運の危機を醸成しつゝあり。是に於て苟も國民たる者は、此の危難を救助すべき最善の努力を盡さざるべからず、故に政府は率先して緊縮を叫べり。吾人は知る、緊縮それ自體が決して國家終局の目的に非ずして、産業貿易の振興と、國民生活の安定を確保し、以て國運の發展を計らんが爲の前哨にして、將來伸展せんが爲の準備なるを、向上せんと欲せば、先づ屈曲せざるべからず、明年早々斷行豫定の金解禁も亦その方策の一なり。

金輸出禁止を決行せし大正六年に於ては、所謂大活況時代にして、巨額の正貨受取超過を示し、その激増と共に我國の通貨及信用は膨脹し、物貨は極度に昂騰したりき、然るに世界大戰終局後は、我國の商品は漸次海外市場より驅逐され、一方輸入は漸増し外債は彌々増加したるも、金輸出禁止の爲め正貨は流出する事なく、巨額なりし在外正貨は國濟決濟の爲僅少となり、今や寒心すべき状態に陥り、爲に我國の國際的經濟信用はますます低落し、通貨は收縮の傾向もなく、物價は依然として低下せず我國の物價は外品に比し高位にある爲、猶一層對外賣行を阻害し、一面我國民は諸外國の割安品を買ふ傾向を生じ、貿易は一躍入超に轉じ、事業は起らず、産業界は漸く衰微し、國民の所得は漸減し、購買力は減退し不景氣は一層深刻となりつゝあり、然らば金解禁後は我國の景氣は如何なる推移を辿るか、我國の物價が外國と比較して、均衡のとれるまでは、理論上正貨流出も己むなきことである、その道程中にある間信用は收縮し、海外品は急激に輸入増加を示し、産業界は一般に強大なる壓

迫を受け、國民の所得は更に減少し、輸出はいはすもがな内國的にも消費力が激減し、徹底的な不景氣が到着し、事業は彌々衰微し、郡鄙到處をしますゝ疲弊せしめ、人心恟々として思想も漸く險惡となり、處置如何によつては國情は爲に不安暗澹たる危機を孕まん。

然れども此の困難に手克つ所に眞の大和民族の意氣あり、國家的統一の偉大なる潜勢力あり。我國民の試練力を見出す好期なり。

現政府は組閣以來銳意緊縮に意を注ぎ、財政の根本的立直を敢行し、國債の整理消費の節約に務め反對黨の猛烈なる攻撃を冒し、法律の寛容する範圍に於て、昭和四年度豫算に付き極力節約を勵行し且五年度豫算編成に當り苦心慘愴して、一層緊縮の徹底に努力し、公債を發行することく、新規事業を見合す等積極政策を中止し、一方に於いては、國債整理基金の繰入を増加し、且地方公共團體の財政に極力緊縮の方針を遵守せしめ、地方債増加の抑制にも注意し、或は進んで大官街頭に立ち現時に於ける財政經濟の不況、整理緊縮の必要を説き或は地方遊説に努め金解禁即行の理由を明にし豫算編成の賛成を求め或は軍縮の精神を了解せしめ、對支政策の要諦を論じ、社會問題の圓滿なる解決を計り、綱紀肅正を叫ぶ等社會の淨化を主張すると共に一般國民の財政經濟に對する自覺を誘導し、節約の勵行に努力しつゝあり。

吾人は政府の努力を諒とし、彌々緊縮の精神を遵守すると共に、徒に消費すべきに非ず、將來否眼

前の問題金解禁断行の後には、猶一層の困厄不況に陥るものと覺悟せざるべからず、是に於て吾人はますます緊縮の必要を覺ゆなり、而して猥りに緊縮を叫ぶ勿れ、徒に節約を論ずる勿れ、只吾人は實行するのみ、百の獅子吼は一の實行に及ばず、彼の敗戦國獨逸を見よ、彼等は黙々として協同一致國運の挽回に努力し、今や各方面に於て駸々として發展しつつあり、國家の中堅第二の國民を以て任ずる吾人の責任の轉た大なるを覺ゆ、然りと雖も緊縮の思潮に脅威せられ、吾人の意氣——焰々と燃ゆるが如き我等青年の體氣を萎縮せしむること勿れ、將來に自由の活動をなさんとする吾人の血潮に、鼓躍する元氣を退嬰せしむること勿れ、吾人の意氣を旺盛にし、充溢する精神こそ眞の緊縮の目的なれ眞の緊縮の精神を自覺せよ、好景氣時代の惰性を覺醒せしめて意義ある緊縮の生活に突進せよ、お、友よ、我等學生よ。

【442】

## 進路と努力

大分縣立宇佐中學校 第五學年 角 野 正

我等の進む路は、如何なるものであるか、現今に於ては多種多様有るけれども、何れを選ぶべきかは、人によりて異なる、文學者もよし、實業家もよし、工業家もよし、畢竟己の才能趣味に顧みて選

ぶのが最も無難だ、だが、世には己の才能趣味に適合せぬ路を取らねばならぬ事もある、其れは時の運で致し方もない、されど出來得る限り、己の好む路を選ぶのが至當である、己の虚榮の爲に、己の功利心の爲に、己の性格才能にとても似つかぬ進路を定めたりとしたならば、その結果は必ず失敗に終るであらう、よしんば成就したとしても、必ずや一時の僥倖である、何時かは缺陷があらはれ、倦怠の念を生じて来る。つまり己の進路を定めるにはきつと熟慮を要する。

一度己の才能趣味に適合せる路を定めたらば、如何なる事あるとも、成就させずんば已ますの意氣を要する、此意氣遠くにあらず、只己の努力如何に存するばかりである、努力無くては望は決して達し得ぬ、成功の裏には必ず努力がある、成功を望めば、努力を想ふべきである、努力について奮闘の二字が顯はれて来る、或る意味に於ては、全く同一である、努力は自ら勉むる事であり、奮闘は自ら奮つて積極的に事を爲す事である、所謂奮闘は先鋒で、努力は大將である。

我等の腦裡に此の二つが刻みつけられてゐるならばどんな目的の土臺をも築き上げる事が出来るのだ、人生には決して樂はない、否むしろ困難である、非常な困難が行手に横たはると雖も、それは奮闘の試練だ、かう覺悟すれば何の事はない、此の二字實に我等に取つて標語であり、最高目的である此の激烈な生存競争の世の中に於て最後の勝利となす者は、何んと云つても奮闘の外には何物もない我等の進路を導く者は、何んと云つても努力だ、我等に酬ゆるものは努力であり、最も重要な進路

【443】



を注視するものは奮闘である。

茲に私の感ずる進路について述べて見よう、今日の日本は、内は人口過剰を來たし、食糧問題に窮し、しかも確然たる國策を建つるものもない状態である、外は米國の排日問題を始めとして、移民不可能の状態にあるが、此の行詰つた日本を救ふものは、産業立國よりも寧ろ海運立國であらねばならぬ、渺茫として果もなきあの太平洋には、排日もなく、干渉もない自由の天地である、天を相手とし海洋を友とし、而して遑まぐ怒濤と戦ふのは、實に國民の本領であり青年の快事である、吾人の進路を此の海洋に取るもよし、この醜態たる小日本に醉生夢死するよりも、雄大で豪壯な天地に活躍するは、何程益しか知れぬ、孟子の所謂浩然の氣は、か、所に存するのである。自然は決して人を捨てない、而して其の努力だけに酬ゆるものである。

我等は静思獨坐して、自己の長所短所を見出し、己の才能の適する所へ奮進せねばならぬ、だが何所にも遊んでゐて善い事は決して無い、今一度云ふ成功の裏には必ず努力あり、奮闘ありと、而して努力は學生の本領であり、奮闘は青年の本分である、青年にして安逸惰弱を貪るが如きは、實に薄志弱行所謂腐敗であり、惰落である、彼の北極探險家アムンゼン氏は叫んだ「若は一時であり愉快は永久である」と、誠にさうだ、一時の努力によつて永遠の快心が得られる、青年よ、學生よ、奮闘せよ、努力せよ、高山の白雪を踏むべく、海洋の無人島を踏むべく飛躍雄飛せよ、と私は叫びたい。

## 吾人が瞥見せる社會

大分縣立中津中學校

瀬

群

敦

扇城丘頭秋立ちて沖臺の野の氣は清き哉。涯しなき紺青の空に輝く白日の光よ。千里の金風を浴びては澄明の空高く叫ぶ校庭の白楊よ。岩頭の秋水清らかなる山國の清流にも意氣天を衝く健兒の雄叫びを聞くなり。おー五年の學び舎、白楊の學舎よ！、愛情深き師と兄弟の契濃かなりしクラスメートと沖臺の天地秀靈の氣を吸ひて青春の紅血を躍動せしめたる處、今や我等螢雪の功成らんとして思ひ出多き扇城ヶ丘を去らんとするの日亦遠からず。悲風一掃して憧れの白楊散り行く夕、靜かに南窓に倚りて暮色深み行く求菩提の山影を眺むれば去りし日の思ひ出、行く手の惱み胸裡に徂徠して轉た感慨深き物有り。

今や社會は財界の不振その極に在り、勞資の問題は年と共に葛藤を甚しくし山陰僻濱と雖も、苟も炊煙上る所に失業の嘆聲有り、生活の脅威有り、生活の安定を得られざる者に依りて唱導せられたる不健全なる思想は次第に乾涸せる田園に侵入して往時の純真素朴の風は漸く地を拂ひて消えんとす。世界大戰の莫大なる戰禍は世界各國をして永久の平和を高唱せしめたれども、尙列強の競争より起る狂猛なる嵐は絶えず國家の背後を襲ひつゝあり。將、人口問題、食料問題につきて惱みつゝある祖國

社會を前にして、吾人が五年の勉學は果して如何なる効果をか修め得たりし、階前の梧葉をおどなふ秋風を聞かず、池塘春草の夢を食りたりし我等近く社會の一員として活動すべきを思へば流汗三斗の感を免るゝ能はず、眼を轉すれば、市井の小人孜孜として、生活の營みと一身の行樂に閑暇なく、公益の何たるを知らず、報國の何たるを知らず、厘毛の損益を争ひて權花一朝の人生を過せり。一般民衆は即ち言ふ。「現代は黄金萬能の時なり、營利の爲、時に曲を加ね、非を行ふは是處世の要訣なり。」と、學校生活より實生活に移らんとする十字街頭に立てる吾人、此の聲を聞く時、暗然として憂愁有り、孔子が説きし道德、釋迦の涅槃、基督の愛は抑々人生の奥義を穿ち、全人類永遠の理想に適合せざる者なりや。何ぞ彼等の卑劣にして、自ら我慾放縱の桎梏を求むるの甚しきや。吾人は公德を學びたり、博愛を學びたり、犠牲を學びたり。而して去りし日、吾人が胸に描きた社會は虹の如く麗しく碧空の如く朗かなりき。然るに現實は如何。一國の重鎮として臺閣に具り、天下の輿望を修めて大政に參贊する者にして無學文盲の徒も愧づる行爲有り。經濟界の驍將として宇内に雄視する者は所謝ブルジョア風を吹かし、その影響結果の赴く所を鑑みず、一個の利益の爲無数の同胞をして糊口を繋ぐ資すら得さしめず、將、有産階級の華麗なる生活を羨望せる無産貧困の徒は内に信する所なければ、眼を社會國家の大局に注ぐ能はず、衣食住を以て人生の凡てと爲せり。時勢の推移と共に、宗教の惰落甚しく祇園精舎の軒朽ちて、葦酒の香已高く、福音俗に媚びて、僧侶の誦經説教の背後に常に算盤勘

定の存在を見るなり。思想は混沌として、そのかみ天地創造の當初の如く、先變萬化を爲し、戰國の群雄割據せるが如く、或は黄金萬能と云ひ、藝術至上と云ひ、或は資本主義となり、多少の偏見を交へたる幾多の思想人心に染み、辯論自由の權を擅にして聳々我田引水の説を吹聴す、一犬吠影百犬吠聲、實に然り。一人奇抜の説を爲せば、宛ら斷崖を落つる一石、百石を誘ふが如く人生の價值と目的とを解せざるの徒、雷同附和して滔々一潮流を爲す。噫！此社會の實相に非ずや。民政緊縮を絶叫すれば政友則ち反す。東に太平洋、西に東亞漸く多事ならんとするの時に當りて如何か舉國一致の實を擧げ得べき。吾人漫然たる青衿の身を以て人生の行路に掉さゝんとして回顧すれば、惰落の世界、人面獸集合の社會なる哉。頭を廻らせば三千年、深宮婦女の手に依りて長じ、邦家百年の計を知らざる長袖の貴公斗南の鵬翼を開く能はず、天來の啓示を解せざる武夫政權を弄する事幾時ぞ。うら若き志士の血に依りて王政復古、明治維新は成りぬ。維新成りて六十年斯の如き社會の現出せんとは、何を以てか先人の努力に答ふべき、將、吾人にして如何なる道を進むべき。

編輯を終へて

縣當局者を始め縣下各中等學校長以下、諸先生及各父兄諸氏の熱誠なる御援助により産み出された「學生の指針」は其の後編輯印刷等の爲め、尠からざる時日を要しましたが、愈々本日製本を了しまして鶴首して御待ち下さつた諸君の机の上を飾る事が出来る様になりました。編中諸君の物せるものは勿論、諸先輩諸氏の至盡の言論は紙面に溢れ、能く愚書の萬讀に勝るでありませう、本書が伸び行く青年男女諸君の爲め、其の指針たるべきは言ふまでもありませんが、併せて之等青年男女の父兄及教養の任にあたる各位の爲め、好呼の資料たるを得ることを光榮とします。我帝國の將來は現在青年男女によつて樹てらるべきであるが、現下には老朽諸氏の言論機關は幾多有るも、之等學窓にある青年男女諸君の言論機關の未だ出でざるは遺憾に堪へない次第であります。近く之等青年男女諸君の自由言論機關を起したいと思ひますが、御賛成又は御意見ある方々は住所姓名を御明記の上、當出版協會編輯部宛に御一報下され、祖國の爲め其の成立に就き俱に與に御盡力あらむ事を切望して止まざる次第であります。

昭和四年十二月八日印刷納本  
昭和四年十二月廿一日發行

拾

「學生の指針」

定價金參圓

大分市一〇六八番地

編輯兼

松本干城

發行人

大分市南新地四四九番地

印刷所

大分印刷株式會社

大分市南新地四四九番地

印刷人

野崎板太郎

大分市一〇六八番地

發行所

大分縣出版協會



終

